

# 酒のことわざで あなたの酒席を にぎやかに

— たる味会「編」酔っぱらい大全より —



酒のことわざを知っていますか。

・酒は百薬の長  
・酒は飲むとも飲まれるな

これくらいはすぐに出てくるだろうが、このあとが続かない。実は、酒のことわざはかなりたくさんあるのだが、意外と知られていないようだ。そこで今回は正月号ということで、酒のことわざを紹介してみよう。

出典は、たる味会編「酔っぱらい大全（講談社）」

編者のたる味会は、カバールの折り返しによれば、

昭和59年に発足した日本酒愛好会（代表・吉田雅典。全国各地の蔵元を訪問し、提供をうけた「心ある酒」を楽しむ一方、酒の歴史、現代・未来の酒のあり方を研究する。（後略）

その「たる味会」が出した「酔っぱらい大全」はどのような本か。オビによれば、日本酒覚宣言!!

酒にまつわる日本史人物の逸話から、とつておきの知られざる酒造り秘話まで、思わず人に話したくなる極上大吟醸のウンチク話。まさに酒は人生そのものだ。

その主な内容は、

- ・清酒の醸造のはじまりはいつ?
- ・灘酒が有名になった理由
- ・爛徳利はいつ生まれた?
- ・うまい酒の出来るまで
- ・吟醸酒・純米酒・本醸造酒・普通酒の基準



- ・杜氏・蔵人たちの役目
- ・女人禁制から解放された酒蔵の世界
- ・金賞受賞酒とはどんな酒？
- ・利き酒は人間の感覚による官能検査

- ・酒飲み四字熟語
- ・酒造り体験入門
- ・日本酒の買い方・保存の仕方
- ・酒の資料館ガイド
- ・都道府県別にみる酒の消費量

これでわかるとおり、酒に関するすべての知識が収められているのだ。それもわかりやすい文章で、楽しく読んでいこう。酒の知識が身につくようになっていこう。酒のことわざは、このうちの酒の四字熟語の章の中に収められている。では、酒のことわざをピックアップして紹介しよう。(ことわざの後の解説は多少変更を加えたものもある)

## 酒の讃歌

酒なくて何の己おのれが桜かな

桜のような美しいものを見ても、酒さけがなくて、少しも面白くも楽しくもない。「酒なくて見れば桜もかつばの屋いへ」も同様。

酒は天の美祿

酒は天から授かったすばらしい賜物である。この言葉から「美祿」は酒の異称となった。『漢書かんしよ』の食貨志・下にある言葉。この欄のタイトルにもなっている。

酒は情けの露雫つゆしずく

酒は情合いをこまやかにする露や雫のようなもの。

## 酒飲みの自己弁護

御神酒おみさけあがらぬ神はない

酒飲みが自分を正当化するためにいうことわざ。神様でさえ酒を飲むのだから、人間が飲んで悪いはずがない、ということ。

下戸げとの建てたる歳としもなし

酒を飲まないからといって、必ずしも金を残し、富裕になったということもない。

酒べつちやうに別腸べつちやうあり

酒には酒の入る別の腸がある。したがってたくさん飲めるといわけ。酒は別腹。甘いもの好きは甘いものは別腹という。

とかく浮世うきよは色と酒

この世の最上の喜びは、なんといっても情事と酒に尽きる。

酒飲んで死んだ者は泥鰌どじょうばかり

いくら酒を飲んでも死にはしないという酒飲みの自己弁護。泥鰌を酒に浸すとすぐに死んでしまうことからこのようにいわれている。

酒は憂うれいを払はらう玉筥たまはちまき

酒は心配事や悩み事を忘れさせてくれるすばらしい筥のようなもの。中国宋代の蘇軾そしつの詩「洞庭春色」にある。

## 酒の本質

鏡は容貌を見せ、酒は心を見す

酒を飲むと、ふだんその人が隠している本当の姿が現れる。

金は火で試み、人は酒で試みる

金の品質の良否は火で熱するとわかるように、人は酒を飲ませ酔わせることによつてその本性がわかってくる。

酒飲み本性たが違ちがわず

どんなに酒に酔つても、もともとどの性質は変わらないということ。

人を知るは酒が近道

「人酔いて本心を現す」で、その人の性格を知るには、酒を飲ませるのが手取り早い手段である。

## 美酒に酔ら

朝酒は門田かどたを売つても飲め

「門田」は家の門前の田で、最も良い田。それほど朝酒のうまさには格別である。「朝酒は女房を質しに置いて飲め」も同様。

一杯の酒、一世の榮華

一杯の酒でも、飲めば榮華の心地を味わうことができる。

酒中の仙

世間の俗事にとらわれないで酒を楽しむ

んでいる人。酒仙とも。

### 手酌五合、鬘一升

自分で注いだ酒だと五合でもう結構となるが、女性が注いでくれた酒はうまいので、一升は飲めるといふこと。「鬘」は日本髪の後方に張り出した部分で、若い女性のこと。

### 友と酒は古いほどよい

長く交際している友人ほど信頼関係があるように、酒も長い間貯蔵したほうが味わいがある。

### 飲まば朝酒、死なば卒中

酒を飲むなら朝酒がいちばんおいしいし、死ぬなら苦しみのない卒中で死ぬのがいちばんいい。

### 酒の爛は人肌

酒の爛は体温ぐらいが最もおいしい。

### 酒は爛、肴は刺身、酌は鬘

酒をおいしく飲む条件を挙げたもの。酒は程よく爛をし、肴は刺身にして、美しい女性の酌で飲む酒がいちばんおいしい。

八代重紀の舟唄だと次のようになる。

お酒はぬるめの 爛がいい

肴はあぶつた イカでいい

女は無口な ひとがいい

灯りはぼんやり 灯りゃいい

## 酒席の流儀

### いやいや三杯

もう結構といいながら、すすめられると何杯でも食べたり飲んだりすること。

### 聞かずの一杯

人に酒をすすめる際、相手がことわつても最初の一杯だけは酌をしてもよいということ。

### 亭主の心遣いは飯酒雪隠の三つ

人を家でもてなすときの心遣い三点。酒の肴を吟味すること、食事を準備すること、便所を清潔にすること。

### 杯に推参なし

「推参」は無礼の意。酒席で杯をすすめるのに、身分を気にして遠慮する必要はないということ。



### 杯に子子が湧く

酒をついでもなかなか飲まない人に飲むことをすすめる言葉。

### 酒の席には神、猫、婆

楽しいはずの酒の席で嫌われるもの。

## 舌兵衛酒模様



### 酒に酔うて虎の首

酔っぱらって、虎の首をとったような大きなことをいう。酔っぱらいの大言壮語。

### 酒盗人

いくら酒を飲んでも顔に出ないこと。「空上戸」ともいう。

### 酒飲みの半人足

酒飲みは半人前の仕事しかしないということ。

### 酒の酔い、落ちても怪我せず

酔っぱらいは溝などに落ちてもどういふわけか怪我をしない。

### 酒は酒屋にあり、布子は質屋にあり

酒は酒屋に行けばいくらでもあるが、酒の代金にするための布子とはとくに質屋に預け入れてあって、今は一文もない。「布子」は着物のこと。

### 猿の花見

花見客が酔っぱらって真赤になっている様子。

### 上戸かわいや丸裸

呑兵衛は、衣類を酒代にするため、いつも丸裸である。また、呑兵衛は酒代がかさんで財産がないこと。

### 死んで千杯より生前の一杯

死んでから浴びるほど酒をもらってもうれしくない。それより生きていこう

ちにごちそうになる一杯の酒のほうがうれしい。

### 呑兵衛の節供働き

ふだんあまり仕事をしない呑兵衛が、他人が休むときになって働くことをいう。

## 毒か薬か？

### 酒に十の徳あり

室町時代の狂言「餅酒」にある言葉。次のように十の徳をあげている。  
独居の友、万人と和合す、位なくして貴人と交わる、推参に便利、旅の食となる、延命の効あり、百薬の長、憂いを払う、労を助く、寒気の衣。

### 酒は百薬の長

適度の酒は、どんな薬よりもまさって体によいということ。「漢書」の食貨志に、「夫塩食肴之将、酒百薬之長」とある。

### 上戸は毒を知らず、下戸は薬を知らず

酒飲みは酒が毒になることを知らないで飲むし、飲めない人は酒の効用を知らないで飲まずにいる。

## 酒の戒め

一杯は人酒を飲む、  
二杯は酒酒を飲む、  
三杯は酒人を飲む

酒は適量に、という戒め。

### 陥り易きは酒の海、迷い易きは色の道

酒と女には身を誤りやすいということ。

### 親の意見と冷酒は後で聞く

親の意見は当座はなんとも思わなくても、後になってなるほどと思うもの。冷や酒の酔いもしばらくしてから出てくる。

### 酒と朝寝は貧乏の近道

戒めの言葉。あまりずばりと言われて、耳が痛い？

### 酒は酒兵の如し

「兵」は武器の意。酒は武器と同じように、使い方を誤ると害になる。

### 酒は飲むとも飲まれるな

酒は飲んでもよいが、酔いしれて、理性を失うような飲み方をしてはいけない。

### やけ酒は貧乏の花ざかり

やけ酒を飲んでばかりいると貧乏になるということ。

どうです。酒のことわざで意外とたくさんあるでしょう？ 実は、「酔っぱらい大全」には、これより倍以上のことわざが掲載されているのだが、紙数の都合で、代表的なものをピックアップしてみた。

「酔っぱらい大全」には、このほか酒に関する面白い記事がいっぱいある。ぜひ一読して、酒席の場を大いに盛りあげてください。